～欣浄寺法語メール～２０１７年６月～

「６月の花嫁」

　先日納骨団体参拝で本山西本願寺に参拝し、偶然にも結婚式を終えたばかりの新郎新婦に遭遇しました。ご一緒した皆さんは目をパチクリ、お寺で目の前に新たな人生のスタートを切ったばかりの二人が突然現れたのですから・・・。数年前、本願寺での結婚式の媒酌人を務めた時も同じ反応、俳優と見まごうばかりの新郎新婦を見てドラマの撮影かと早合点しそうになった人も、直ぐ後ろにいるのが私ですからこれは本当の挙式と分かって祝福の拍手を送ってくださいました。

　新婦の衣装は私たち浄土真宗のみ教えと深く結びついています。一つは角隠し、新婦に角があるとは誰も思ってはいません。しかし

本人には煩悩具足の自覚があって、せめて嫁ぐこの日だけはそれを覆い隠したいとの思いが、新婦の衣装にはにつかわしくない「角」隠しなっているのです。もう一つが白無垢の「白」で、東西南北のうち「西」の方角を示す色です。西方（さいほう）浄土と説かれているように、仏さまの世界は西のかなたにあります。凡夫である私が浄土に往生して、誰からも手を合わしてもらう仏さまになるのです。新たな世界に「生」まれ「往」き、新たな歩みを始めることを「白」は象徴しています。

　大切なご身内の「白骨」と「白無垢」を見送る方々が交錯した本山での一時でした。